

表8【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに		これまでに注射経験あり		入れ墨		
	注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり		
						33[35.9]	37[40.2]
これまでに (%)							
注射経験あり	0.0	100	100	63.6	65.4		
シリンジ 共用経験あり	0.0	80.0 (28/35)	81.8	53.1 (34/64)	46.2		
針の共用経験あり	0.0	69.4 (25/36)	81.8	47.7 (31/65)	46.2		
注射経験の注射回数							
なし	100.0	0 (0/34)	0.0	36.9 (24/65)	37.5 (9/24)		
1～49回	0.0	29.4 (10/34)	9.1	15.4 (10/65)	8.3 (2/24)		
50～99回	0.0	8.8 (3/34)	4.5	4.6 (3/65)	4.2 (1/24)		
100回以上	0.0	61.8 (21/34)	86.4	43.1 (28/65)	50.0 (12/24)		
最近1年間で (%)							
注射経験あり	0.0	0.0	100.0	21.5 (14/65)	23.1 (6/26)		
シリンジ 共用経験	0.0	0.0	76.2 (16/21)	18.5 (12/65)	15.4 (4/26)		
針の共用経験	0.0	0.0	66.7 (14/21)	15.4 (10/65)	15.4 (4/26)		
注射経験の注射回数							
なし	100.0	100.0	0.0	75.8	76.9		
1～49回			36.4	7.6	11.5		
50～99回			0.0	0.0	0.0		
100回以上			63.6	16.7	11.5		
これまでに「あぶり」の経験あり (%)							
	39.4	51.4	77.3	54.5	50.0		
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)							
	24.2	8.1	38.1 (8/21)	21.2	20.0 (5/25)		
この1年間ではどちらが多いか? (%)							
注射	0 (0/32)	0.0	85.0 (17/20)	20.0 (13/65)	16.7 (4/24)		
「あぶり」	28.1 (9/32)	8.1	10.0 (2/20)	15.4 (10/65)	16.7 (4/24)		
同程度	0 (0/32)	0.0	5.0 (1/20)	1.5 (1/65)	0 (0/24)		
どちらもなし	71.9 (23/32)	91.9	0 (0/20)	63.1 (41/65)	66.7 (16/24)		
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)							
なし	71.9 (23/32)	75.7	68.2	72.3 (47/65)	73.1		
あり (常にコンドーム+)	25.0 (8/32)	8.1	18.2	15.4 (10/65)	19.2		
あり (コンドーム-のことあり)	3.1 (1/32)	16.2	13.6	12.3 (8/65)	7.7		
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)							
なし	81.3 (26/32)	73.0	31.8	64.6 (42/65)	69.2		
あり (常にコンドーム+)	3.1 (1/32)	5.4	27.3	12.3 (8/65)	3.8		
あり (コンドーム-のことあり)	15.6 (5/32)	21.6	40.9	23.1 (15/65)	26.9		
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)							
なし	96.9 (31/32)	78.4	77.3	84.6 (55/65)	84.6		
あり (常にコンドーム+)	0 (0/32)	8.1	0.0	4.6 (3/65)	0.0		
あり (コンドーム-のことあり)	3.1 (1/32)	13.5	22.7	10.8 (7/65)	15.4		
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	0.0	12.5	20.0	10.0	25.0		
「風俗」以外で	0.0	25.0	40.0	30.0	25.0		
両方で	100.0	37.5	40.0	40.0	50.0		
不明	0.0	25.0	0.0	20.0	0.0		
海外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)							
	9.4 (3/32)	8.1	13.6	10.8 (7/65)	7.7 (2/26)		
上記のうち							
渡航先で薬物使用のあった者	33.3	0.0	100.0	42.9	50.0		
渡航先で性交渉のあった	0.0	66.7	66.7	57.1	0.0		

これまでの推移(1)

①精神科医療施設における覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) (複数回の者は、初回をカウント)

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
HIV Ab 検査数	39	41	47	162	270	316	340	362	291	313	311	302	309	228	211	108	112	81	96	95	85
年齢						32.9	33.5	34.5	34.2	35.9	35.1	35.9	36.4	37.1	37.1	37.6	38.0	39.6	39.7	38.4	39.2
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0.3	0	0	0	1.9	0	0	1.1	2.2	5.3
									1/291	1/313		1/302				2/108			1/90	2/89	4/76
HCV Ab +	53.8	65.1	43.6	46.1	43.6	53	43.2	42	44.7	40.5	40.1	37.1	35	37.6	23.6	42.1	33.6	44.6	38	26.9	18.2
	21/39	28/43	24/55	82/178	127/291	165/317	153/354	153/364	140/313	128/316	121/301	112/302	108/309	85/228	50/212	45/107	38/113	33/74	35/92	25/93	14/77
HBs Ag +	2.6	2.3	0	1.7	2.4	1.9	3.4	2.2	0.3	2.5	2.3	1.7	1.6	0.9	9.4	0.9	2.7	1.4	0	1.1	1.3
	1/39	1/43	0/60	3/181	7/290	6/318	12/355	8/365	1/313	8/317	7/302	5/302	5/309	2/228	20/212	1/107	3/113	1/74	0/92	1/93	1/77
HBs Ab +	25.6	25.6	10.8	13	8	11.5	12.2	3.8	3.9	2.2	2.6	1	2.3	2.9	2.6	2.9	0	0	0	5.7	2.6
	10/39	11/43	4/37	18/138	20/250	10/87	14/115	10/262	4/103	2/93	3/116	1/105	3/132	3/104	2/76	2/68	0/67	0/49	0/68	3/53	1/38
HBe Ab +				16.7	9.4	18	5.8	0	4.9	0	0	2.2	0	0	0	2.0	1.6	0.0	0.0	10.5	8.3
				1/6	5/53	12/61	6/104	0/82	4/81	0/60	0/4	1/45	0/6	0/83	0/55	1/49	1/61	0/49	0/63	2/19	2/24
% Needle Use (lifetime)	92.1	95.3	93.3	98	88.9	92	86.7	84.9	66.9	77.7	82.3	81.5	73.5	86.4	76.9	79.3	80	77.8	68.3	83.5	71.8
	35/38	41/43	56/60	50/51	134/149	127/138	156/180	149/157	83/124	94/121	121/147	101/124	121/166	108/125	83/108	69/87	80/100	56/72	63/92	66/79	51/71
% Needle Use (past year)		50	70	88.2	67.6	68.1	71.1	84.7	58.1	62	61.8	59.3	53.8	56.5	49.5	48.3	51	57.7	37.8	60.8	50.7
		5月10日	42/60	45/51	98/145	94/138	128/180	133/157	72/124	75/121	88/144	73/123	88/165	70/124	53/107	42/87	51/100	41/71	34/90	48/79	34/67
% Needle Sharing (lifetime)	84.2	88.4	67.9	97.2	81.3	78.9	58.9	61.8	48	55.4	63.4	62.3	47.8	67.2	60	65.1	60.2	64.2	58.1	64	50.7
	32/38	38/43	36/53	35/36	109/134	101/128	99/168	97/157	59/123	67/121	85/134	71/114	76/159	84/125	63/105	56/86	59/98	43/67	50/86	48/75	34/67
% Needle Sharing (past year)		40	32.7	52.9	45.8	68.1	37.3	37.6	35	30.6	28.5	25.9	17	23.4	19.2	16.3	14.4	14.5	14.8	31.6	16.9
		4月10日	17/52	18/34	60/131	94/138	62/166	59/157	43/123	37/121	41/144	29/112	27/159	19/124	20/104	14/86	14/97	9/62	13/88	24/76	11/65
「あぶり」の経験+ (lifetime)						30.3	53.4	59.8	59.6	71.1	65.5	63.9	63.4	67.2	68.9	64.4	73.5	70.8	70.9	77.2	78.9
						47/155	93/174	94/157	74/124	86/121	97/148	78/122	104/164	84/125	73/106	56/87	72/98	51/72	61/86	61/79	56/71
「あぶり」の経験+ (past year)						20.8	48	45.2	61.1	56.2	55.4	53.3	57.4	57.6	52.4	48.3	59.6	55.7	59.6	58.2	53.5
						32/154	84/175	71/157	66/108	68/121	82/148	65/122	95/164	72/125	55/105	42/87	59/99	39/70	53/89	46/79	38/71
注射か「あぶり」か (past year)																					
注射						63.2	49.2	68.2	40.7	44.2	40.3	41.9	38.9	29	30.8	37.9	36	37.3	17.8	42.1	38.8
「あぶり」						9	28.5	16.6	41.7	35.8	35.4	36.8	38.9	40.3	40.4	42.5	37	41.8	47.8	35.5	40.3
同程度						1.3	8.4	7.6	10.2	8.3	11.8	6.8	9.3	9.7	5.8	1.1	5	1.5	7.8	9.2	3
どちらもなし						26.5	14	6.4	7.4	11.7	12.5	14.5	13	20.2	23.1	18.4	22	19.4	26.7	13.2	20.9
n						155	179	157	108	120	144	117	162	124	104	87	100	67	90	76	67
調査施設数	関東1	関東1	関東2	全国6	全国7	全国6	全国6	全国7	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国5	全国4	全国4	全国4	全国4	全国5
		関西1	関西1																		

これまでの推移(2)

②薬物依存症回復支援施設入所者中の覚せい剤乱用・依存者(実数) 複数回の人間は初回をカウント

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
HIV Ab 検査数	4	9	11	33	35	18	37	42	43	26	38	26	48	24	37	39	32	57	47
年齢				29.7	31.8	32.6	32.9	34	33.6	35.2	37.5	36.3	37.0	40.1	38.9	39.1	40.5	39.1	39.5
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3
HCV Ab +	25	44.4	9.1	53	48.6	38.9	40.5	31.0	32.6	23.1	26.3	26.9	29.2	37.5	29.7	39.5	50.0	33.3	37.8
HBs Ag +	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	2.6	0	0	0	2.7	7.9	0	0	0
HBs Ab +																			
HBe Ab +																			
% Needle Use (lifetime)	100	83.3	90.9	75.8	88.6	88.9	81.8	81	86	88.5	92.1	92.3	89.6	91.7	89.2	84.6	84.4	87.7	93.6
% Needle Use (past year)	75	50	72.7	42.4	65.7	38.9	45.9	40.5	34.9	19.2	28.9	42.3	14.6	12.5	29.7	38.5	21.9	31.6	40.4
% Needle Sharing (lifetime)	50	66.7	81.8	69.7	79.4	72.2	73	66.7	67.4	65.4	81.8	76	75	87.5	78.4	66.7	71.9	71.9	78.3
% Needle Sharing (past year)	25	33.3	54.5	36.4	54.4	22.2	32.4	16.7	20.9	3.8	18.4	23.1	8.3	12.5	16.2	12.8	15.6	17.5	27.1
「あぶり」の経験+				71	60	72.2	56.8	64.3	55.8	61.5	60.5	52	64.6	66.7	75.7	74.4	56.3	54.4	63.8
「あぶり」の経験+				37.5	34.3	38.9	35.1	14.6	11.6	3.8	10.5	15.4	12.5	8.3	8.3	20.5	3.1	21.1	23.9
注射が「あぶり」か (past year) 注射				34.4	57.1	22.2	43.2	41.5	34.9	19.2	28.9	34.6	18.8	8.3	30.6	35.9	21.9	26.3	34.8
「あぶり」同程度				18.8	17.1	27.8	13.5	9.7	11.6	3.8	2.6	11.5	4.2	0	2.8	7.7	0	8.8	10.8
どちらもなし				6.3	5.1	5.6	0	0	0	0	2.6	0	0	4.2	0	0	0	0	2.2
n				40.6	20	33.3	43.2	48.8	53.5	76.9	65.8	53.8	77.1	87.5	66.7	56.4	78.1	64.9	52.2
調査施設数	全国1	全国1	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国3	全国3	全国4	全国3	全国5	全国5	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6

UNAIDSへの提供データ

2013年

	2013年
この1年間での注射薬物使用者(A)	分母は調べた患者数 81/322
過去1ヶ月間での注射薬物使用者(B)	分母は調べた患者数 11/126
Aのうち、必ず清潔な注射器具を使った者の割合	41/81
Bのうち、最も最近の注射で、清潔な注射器具を使ったものの割合	6/10
Aのうち、必ずコンドームを使った者の割合	Aのうちで1年間に性交渉のあった者 17/78
Bのうち、最も最近の性交渉で、コンドームを使った者の割合	Bのうちで1年間に性交渉のあった者 2/11

最も最近のセックスでコンドームを使用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去1ヶ月間に注射薬物使用と性行為を行ったもの	男女(ただし、全員男性)	全年齢	・病院群 1/1=100% ・DARC群 1/1=100% ・全体で 2/2=100%	・初回検査者のみを対象とした
最も最近の注射で清潔な器具を使用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去1ヶ月間に注射薬物使用を行った者	男女(ただし、全員男性)	・25歳未満はいない、全員25歳以上	・病院群 3/5=60% ・DARC群 3/5=60% ・全体で 6/10=60%	・初回検査者のみを対象とした
過去1年間にHIV検査を受け、その結果を知っている注射薬物使用者の割合	性別 年齢別(<25, >=25)	男女(ただし、全員男性)	・25歳未満は1人のみ	・病院群 8/8=100% ・DARC群 2/2=100% ・全体で 10/10=100%	・初回検査者のみを対象とした
HIVとともに生きている注射薬物使用者の割合	・2013年の「薬物使用に関する全国住民調査」による覚せい剤使用生涯経験者推計値は、519,721人				

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
高リスク層の HIV 感染監視と予防啓発及び内外の HIV 関連疫学動向の
モニタリングに関する研究

外国人薬物使用者等の HIV 感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者：中村亮介（東京都立松沢病院）

研究要旨 ①精神科に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染にかかわるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料に供する事を目的とした。②本研究では首都圏に位置する公立精神科病院に薬物使用等で入院となった外国人患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。③一昨年・昨年の調査においては HIV 感染者はみられなかった。④女性患者で風俗業に従事する者が一定の割合を占めている。⑤とくに男性患者において、一般的には社会的に引きこもりを示す傾向が強い統合失調症の割合が増えている一方で、奔放な性行動をとる一群との二極化を示すようになっている。本年は「脱法ハーブ」の使用が増加を示した。
薬物乱用者は増加の傾向を示しており薬物乱用者間での HIV 感染拡大の一因として懸念されるところであり、今後とも外国人症例の調査が必要と考えられた。

A. 目的

精神科病院に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料とする事を目的とした。

B. 研究方法

研究では首都圏に位置する公立精神科病院に薬物使用等で入院となった外国人患者を対象として、同意を与えることが対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

C. 目標

院内倫理規定に則り書面にて同意の得られる症例を対象に 100 例／年程度までは対応できる体制で臨んだ。

D. 研究結果と考察

本年では、18ヶ国 42 名（平均年齢 36.4 ± 18.2 歳）の入院があった。男女の内訳は男性 26 名 (36.0 ± 23.7 歳) 女性 16 名 (33.1 ± 9.8 歳) であった。

入院患者を出身国別にみると、おおよそ例年の傾向を引き継いだ形となっているが、アジア地域からの患者数が減少を示している。（表 1）

同時に調査を行なった、HBV、HCV、梅毒の感染については、「B 型肝炎ウイルスのキャリア」としては男性 1 例および C 型慢性肝炎の男性 2 例が見られた。（表 2）

外国人患者の ICD-10 分類による内訳を（表 3）に示す。例年通り F2（統合失調症圏）の症例が最多となっている。

また女性患者のうち「風俗業」に従事していた者の比率はここ数年持続して上昇の傾向を示していたが一昨年以降は若干の減少あるいは頭打ちといった印象である。

（表 4）

42名の症例のうち、薬物乱用者は7名確認された。

「静脈注射使用歴を有する患者」はここ数年減少の傾向が見られているが、全くみられなくなったわけではない事が本年の調査でも明らかとなった。

本研究の対象となる「首都圏公立精神科病院に入院となった外国人患者」には常に一定以上（5%以上）の割合で薬物乱用者が含まれていたが、これが大きく増加を示した昨年を引き続いて、昨年と同等の水準を示した。男性に限れば26名中5名（19.2%）女性においても16名中2名（12.5%）と高い割合を占めている。

覚醒剤は性交為時の快感を増強させる目的で用いられる事が多いのは周知の事実であり、薬物乱用者ことに覚醒剤乱用者においては性交渉においてより強い刺激を求める傾向にあると推認される事から性感染症への罹患リスクが高いものと考えられ、HIV 拡散の高リスク群として外国人患者の動向は注目すべきものとして今後も継続した実態把握が必要である。

E. まとめ

①首都圏精神科病院に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わ

るハイリスク行動を調査した。

②文書による同意の得られた42例に対して調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

③本年はHIV感染症者は認められなかった。

④また本年は例年に比して患者総数に目立った増減はなかったものの薬物乱用者の増加が目立っており、薬物乱用者間でのHIV感染拡大が懸念される所であり、今後とも外国人症例の調査が必要と考えられた。

F. 発表論文 なし

G. 学会発表 なし

H. 知的所有権の取得状況 なし

表1 2013年における外国人入院患者の国籍 [単位：人数]

国籍	男	女	合計
中国	5	4	9
韓国	4	3	7
アメリカ合衆国	4	2	6
イラン	3	0	3
台湾	2	1	3
イギリス	1	1	2
タイ	1	2	3
アルゼンチン	1	1	2
ミャンマー	1	0	1
バングラデシュ	1	0	1
コートジボアール	1	0	1
セルビア	1	0	1
フィンランド	0	1	1
デンマーク	1	0	1
コロンビア	0	1	1
合計	26	16	42

表2 2013年における外国人入院患者の有する感染症 [単位：人数]

	HBsAg	HBsAb	HCVAb	TPHA	RPR	HIVAb	HIV-WB
男(26名)	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
女(16名)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計(42名)	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

表 3 2013 年における外国人患者の ICD-10 分類 [単位：人数]

ICD-10	男性	女性	合計
F0 (認知症・器質性疾患)	2	0	2
F1 (精神作用物質性障害)	5	2	7
アルコール	(2)	(0)	(2)
覚醒剤	(2)	(2)	(4)
F2 (統合失調症など)	18	12	30
F3 (躁鬱病圏)	1	1	2
その他	0	1	1
合計	26	16	42

表 4 2013 年における外国人患者の薬物乱用・性行動と血清学的検査の結果

[単位：百分率 (括弧内に実人数を示す)]

	男性	女性	合計
薬物	19.2(5/26)	12.5(2/16)	16.7(7/42)
静脈	0(0/26)	0 (0/16)	0(0/42)
風俗	15.4 (4/26)	18.8 (3/16)	16.7(7/42)
不特定多数	15.4 (4/26)	12.5(2/16)	14.3(6/42)
同性愛	11.5 (3/26)	6.3 (1/16)	9.5(4/42)
HIV	0(0/26)	0 (0/16)	0(0/42)
HCV	7.7(2/26)	0 (0/16)	4.8(2/42)
HBsAg	3.8 (1/26)	0(0/16)	2.4(1/42)
HBsAb	0(0/26)	0 (0/16)	0(0/42)
TPHA	0(0/26)	0 (0/16)	0(0/42)

研究成果の刊行に関する一覧表

(1)原著論文・総説

<主任研究者>

1. Suguimoto SP, Techasrivichien T, Musumari PM, El-saaidi C, Lukhele BW, Ono-Kihara M, Kihara M. HIV epidemics in East Asia. *Current HIV/AIDS Report* (依頼総説, Submitted on Jan.29, 2014, in press).
2. Ghimire PB, Suguimoto SP, Zamani S, Ono-Kihara M, Kihara M. Vulnerability to HIV infection among female drug users in Kathmandu Valley, Nepal: a cross-sectional study. *BMC Public Health* (Accepted on Dec.18, 2013)
3. Musumari PM, Piot P, Kayembe P, Wouters E, Kiumbu, MbikayiS, Ono-Kihara M, Kihara M. Food insecurity is associated with increased risk of non-adherence to antiretroviral therapy among HIV-infected adults in the Democratic Republic of Congo: a cross-sectional study. *PLoS ONE* 2013 (Accepted on Nov.26, 2013).
4. Musumari PM, Feldman MD, Techasrivichien T, Wouters E, Ono-Kihara M, Kihara M. "If I have nothing to eat, I get angry and push the pills bottle away from me": A qualitative study of patient determinants of adherence to antiretroviral therapy in the Democratic Republic of Congo. *AIDS Care*. 2013 Feb 6. [Epub ahead of print]
5. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. Unintended pregnancy and its correlates among female attendees of sexually transmitted disease clinics in Eastern China. *Biomed Res Int*. 2013;2013:349174. doi: 10.1155/2013/349174. Epub 2013 Jun 13.
Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. The characteristics of heterosexual STD clinic attendees who practice oral sex in Zhejiang Province, China. *PLoS One*. 2013 Jun 25;8(6):e67092. doi: 10.1371/journal.pone.0067092. Print 2013.
6. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Ono-Kihara M, Kihara M. HIV antibody testing and its correlates among heterosexual attendees of sexually transmitted disease clinics in China. *BMC Public Health*. 2013 Jan 17;13:44. doi: 10.1186/1471-2458-13-44.

<分担研究者>

1. Shigemura K, Tanaka K, Arakawa S, Miyake H, Fujisawa M : Postoperative bacteriuria, pyuria and urinary Osawa K, Shigemura K, Yoshida H, Fujisawa M, Arakawa S: Candida urinary tract infection and Candida species susceptibilities to antifungal agents. *J Antibiot (Tokyo)*. Jun 26, 2013.
2. Abe Y, Shigemura K, Yoshida H, Fujisawa M, Arakawa S: Risk factors for anti-MRSA drug resistance. *Int J Antimicrob Agents*, 40(5):423-426, 2012.

3. Wada K, Funada M, Matsumoto T, Shimane T: Current status of substance abuse and HIV infection in Japan. *Journal of Food and Drug Analysis*. (in press)
4. 西村由実子、日高庸晴.日本の就労成人男性における HIV/AIDS 関連意識と行動に関するインターネット調査. *日本エイズ学会誌*.15(3): 183-93, 2013.
5. Shimane T, Hidaka Y, Wada K, Funada M: Ecstasy (3,4-methylenedioxymethamphetamine) use among Japanese rave population. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 67: 12-19, 2013.

[総説等]

1. 和田 清, 船田正彦, 松本俊彦, 嶋根卓也: わが国の薬物乱用・依存の最近の動向・特に「脱法ドラッグ」問題についてー. *臨床精神医学* 42(9): 1069-1078, 2013.
2. 和田 清, 船田正彦, 富山健一, 青尾直也: 脱法ハーブを含む違法ドラッグ乱用の現状. *日本薬剤師会雑誌* 65(1): 13-17, 2013.
3. 谷渕由布子, 松本俊彦, 小林桜児, 和田 清: 薬物依存症専門外来における脱法ハーブ乱用・依存患者の臨床的特徴ー覚せい剤乱用・依存患者との比較ー. *精神神経学雑誌* 115(5): 463-476, 2013.

[著書等]

1. 木原雅子、木原正博. 医学的介入の研究デザインと統計: ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで。 *メディカルサイエンスインターナショナル*、東京、2013 (原著: Katz MH. *Evaluating Clinical and Public Health intervention*. Cambridge University Press. 2010)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
「高リスク層の HIV 感染監視と予防啓発及び
内外の HIV 関連疫学動向のモニタリングに関する研究」
平成 25 年度総括・分担研究報告書

2014 年 3 月 31 日 発行

代表者 木 原 正 博

連絡先 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻社会疫学分野
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-753-4350 FAX 075-753-4359

©2014

印刷 トーブラ

本報告書に掲載された論文及び調査票には著作権が発生しておりますので利用にあたりご留意下さい。

